

René LALIQUE

Perfume Bottles from the Collection of Kitazawa Museum of Art
-Art Déco, The Beauty of Fragrance and Adornment-

北澤美術館所蔵

ルネ・ラルリックの香水瓶 —アール・デコ、香りと装いの美—



広報用画像

①香水瓶《真夜中》ウォルト社 1924年

2017年

2018年

12月12日(火) – 1月28日(日)

■ 展覧会概要 ■

19世紀末、ジュエリー作家として人気を博していたフランスのルネ・ラルリック（1860-1945）は香水商フランソワ・コティ（1874-1934）の依頼を受け、1910年頃からガラス香水瓶の制作を始めました。繊細で美しいデザインと卓越した技術で、目に見えない「香り」の世界を幻想的に表現したラルリックの香水瓶は瞬く間にブームとなり、フランスの香水業界に大きな影響を与えました。

時を同じくして、服飾デザイナー、ポール・ポワレ（1879-1944）による、コルセットを使わないドレスに代表されるように、女性のファッションにも革新的な動きがみられます。美術、建築、装飾、ファッションなど様々な分野に広がったこの動きはのちにアール・デコと呼ばれ、新時代の幕開けの象徴となりました。

本展では、世界屈指のアール・ヌーヴォー、アール・デコのガラス・コレクションを誇る長野県諏訪市の北澤美術館の所蔵品から、ルネ・ラルリックによるガラスの香水瓶やパフューム・ランプ、化粧品容器、アクセサリなどを選び、約140点を展示いたします。また、神戸ファッション美術館の協力のもと、アール・デコの装いを代表するドレスやファッション・プレート、同時代に撮影された写真など約15点もあわせてご紹介いたします。

■展示構成■

第1章 ガラスの世界へ

1900年のパリ万博で宝飾部門のグランプリを受賞するなど、ジュエリーの世界で既に名声を得ていたラリックですが、香水商コティとの出会いをきっかけにガラス香水瓶の制作をはじめます。ジュエリー作家ならではの繊細な香水瓶は人々を魅了し、他の香水ブランドもこぞってラリックに依頼するようになります。



②香水瓶《シダ》1912年

第2章 挑戦的デザイン

ラリックのガラス工芸の特色は、透明ガラスを用いた鑄型成形にあります。鑄型に彫り込まれた凹凸により、細かい装飾が可能になり、植物や蝶、女性、神話の人物像などで瓶を飾ります。こうした細かな造形は、ジュエリー制作で鍛えた精巧な鑄型づくりに因るものです。芸術的感覚に溢れたデザインと、それを可能にした技術にご注目ください。



③左から、香水瓶《バラ》ドルセイ社 1914年、香水瓶《ユーカリ》1919年、香水瓶《三組のベアダンサー》1912年

第3章 アール・デコの装い

第一次世界大戦以後、上流階級や有名女優という限られた人々だけではなく、一般女性の間にも化粧が広がっていきます。ファッション界では、コルセットを使わないゆったりしたドレスが流行、さらに断髪の麗人「ギャルソンヌ」も登場します。香水瓶のデザインで人々の心をつかんだラリックは鏡やパウダーケースなどの化粧道具、アクセサリーなどを世に送り出し、女性たちの日常を彩りました。



④左：円形フローチ《カボッション 日本りんごの木》1920年、右：フローチ《背中合わせの二人の人物》1913年

第4章 モダン・デザインへ

1925年、パリで「現代装飾美術産業美術国際博覧会」（通称「アール・デコ博覧会」）が開催されました。第一次世界大戦後の復興を期して、新時代のニーズに適したデザインを集めた博覧会です。ラリックは既にガラス工芸家として地位を確立しており、博覧会のテーマ「水と光の演出」にちなんだ高さ15mのガラス製の野外噴水で好評を博します。ラリックのガラス製品は、博覧会の名称から名付けられた「アール・デコ様式」の代名詞として、世界中から注目を集めるようになりました。



⑤シガレットケース《ねこ》1932年



⑥香水瓶《クレールフォンテーヌ》1931年



⑦左から、香水瓶《すみれ》ウピガン社 1919年、香水瓶《翡翠》ロジェ&ガレ社 1926年、香水瓶《カシス》1920年、香水瓶《青い目》カナリナ社 1928年、香水瓶《リラ》ウォルト社 1937年、香水瓶《アンブリュダンス》ウォルト社 1938年、香水瓶《すみれ》ガビラ社 1925年

※①～⑦北澤美術館所蔵、撮影：清水哲郎

アール・デコのファッションー神戸ファッション美術館コレクションー

アール・ヌーヴォーの流行は、1900年を頂点に翳りをみせはじめ、新しいスタイルへの模索が始まります。ポール・ポワレは、ウエストを強調しない、ローウエストやハイウエストのドレスを発表し、女性の身体を解放しました。第一次世界大戦後の大きな社会変動によって求められた機能的な女性の服は、ゆったりとしたローウエストで膝丈の活動的なドレスでした。1930年代には丈の長いバイアスカットの優美なラインが再び流行します。



⑧ジャンヌ・ランヴァン
《イブニング・ドレス》1936年



⑨ポール・ポワレ
《イブニング・ドレス》1920年頃

※⑧⑨神戸ファッション美術館所蔵

■会期中のイベント■

展覧会関連イベント

◎特別講座「香水瓶の歴史ー古代からファッションデザイナーの時代まで」

12月23日（土・祝）午後2時～

講師：高波真知子（当館副館長）

*要入館料 *定員80名

*事前予約の必要はありません。

*直接、地下2階ホールへお越しください。

◎特別講演会「ルネ・ラリック、香りの世界」

1月7日（日）午後2時～

講師：池田まゆみ氏

（本展監修者、北澤美術館主席学芸員）

*要入館料 *定員80名

*事前予約の必要はありません。

*直接、地下2階ホールへお越しください。

◎ヴァイオリンとヴィオラ、^こ箏のコンサート

1月8日（月・祝）午後2時～

サティなど20世紀初期の楽曲や日本人に馴染みのある曲を1時間程度演奏（休憩なし）。和と洋のコラボレーションをお楽しみください。

出演者：升谷直嗣氏（ヴァイオリン・ヴィオラ）

野口悦子氏（箏）

*参加費無料（要入館料）

*定員80名（応募者多数の場合は抽選）

*往復ハガキによる事前申し込みが必要です。

◇〒・住所・氏名・年齢、日中連絡のつく電話番号、参加希望人数をご記入の上、松濤美術館「コンサート」係まで。

1枚のはがきで2名まで申込可能。

12月19日（火）必着。

☆美術館で香り体験☆

◎調香師による香水講座「香水瓶の中の世界」

1月13日（土）午後2時～

調香師を招き、香料や香水の香りを実際に体験しながら香水について学びます。

講師：岡島佐知子氏（調香師）

*要入館料 *定員30名（応募者多数の場合は抽選）

*所要時間1時間半程度

*往復ハガキによる事前申し込みが必要です。

◇〒・住所・氏名・年齢、日中連絡のつく電話番号をご記入の上、松濤美術館「香水講座」係まで。

1枚のはがきで1名のみ申込可能。

12月20日（水）必着。

◎香りのコーナー *会期中

1Fロビーに香りコーナーを用意し、マリー・アントワネットなどをイメージした香りをお楽しみいただけます。

◆香り体験イベントは高砂香料工業株式会社にご協力いただきました。

◎当館学芸員によるギャラリートーク

12月15日（金）、1月14日（日）、1月20日（土）
各回午後2時～

*要入館料 *事前予約の必要はありません。

その他のイベント

●館内建築ツアー

12月15日（金）、22日（金）、1月5日（金）、
12日（金）、19日（金）、26日（金）

各日午後6時～6時30分

*要入館料 *各回定員20名

*事前予約の必要はありません。

■次回展のご案内■

「2018 松濤美術館公募展」 「サロン展 斎藤茂吉—歌と書と絵の心」

2018年2月11日(日)～2月25日(日)

■基本情報■

- 展覧会名 北澤美術館所蔵 ルネ・ラリックの香水瓶—アール・デコ、香りと装いの美—
René Lalique, Perfume Bottles from the Collection of Kitazawa Museum of Art
—Art Déco, The Beauty of Fragrance and Adornment—
- 会期 2017年12月12日(火)～2018年1月28日(日)
- 開館時間 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
※金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで)
- 入館料 一般500(400)円、大学生400(320)円、高校生・60歳以上250(200)円、小中学生100(80)円
※()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 ※土・日曜日、祝休日は小中学生無料
※毎週金曜日は渋谷区民無料 ※障がい者及び付添の方1名は無料
- 休館日 2017年12月18日(月)、25日(月)、29日(金)～2018年1月3日(水)、9日(火)、15日(月)、
22日(月)
- 主催 渋谷区立松濤美術館
- 特別協力 公益財団法人北澤美術館
- 協力 神戸ファッション美術館
- 企画協力 imura art planning
- 会場 渋谷区立松濤美術館
〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14
電話：03-3465-9421 <http://www.shoto-museum.jp/>
- 交通案内 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

お問い合わせ 渋谷区立松濤美術館

広報担当：吉井 (yoshii@shoto-museum.jp)

展覧会担当：大平 (ohira@shoto-museum.jp)

電話：03-3465-9421 FAX：03-3460-6366

※画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。

